

2012年度  
埼玉地区主題

主にある交わりを  
深めよう

日本基督教団関東教区

# 埼玉地区通信

2012年12月2日  
発行人 日本基督教団 関東教区  
埼玉地区委員会  
委員長 土橋 誠  
飯能市柳町 23-8  
http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/  
印刷所 (株)シャローム印刷

## 地区中学生KKSキャンプ報告

熊谷教会  
布村 伸一

今年の夏期キャンプは八月十五日から十七日、長野県の立科白樺高原ユースホステルで行われました。参加メンバーは十九教会から五十一名(生徒二十三名、青年十三名、大人十五名)でした。立科高原の女神湖のそばにあるユースホステルを貸し切り、天候にも恵まれ気温が熱波(?)の埼玉の地より九度低い、さわやかな環境のもと充実した時を過ごすことが出来ました。

キャンプのテーマは「イエス・キリストへわたしたちに注がれた愛」、中部教区熱田教会の小林光牧師を講師にお迎えしました。小林先生は、改訂版こどもさんびか五十一番をはじめ、多くの讚美歌をつくっておられます。先生は、講演の中で、御自身がなぜ牧師になったのかということから始められ、その中で感じる事が出来た思いもよらない神様の導きについて語って下さいました。そこで、私達は神のなさる不思議な業、大いなる業について思いをはせることが出来ました。また、そのように導いてくださった神様の愛についても、先生は語って下さいました。それは、単に先生が導かれたということだけではなく、私達一人ひとりにもそのような神様の力が働いているという事を思い



起こさせる内容でした。

また、讚美歌をどのようにして作曲するのか、先生が作曲された、いくつかの讚美歌を歌いながら教えていただくことも出来ました。先生の讚美歌には改訂版こどもさんびか五十一に見られるように、聖書のみ言葉をストリートに伝える曲や他にも神様の恵みを賛美する曲等多岐にわたり、講演だけではなく、多くの讚美歌を歌うことによつて私達は神様の恵みの大きさを感じる事が出来ました。特に小林先生が今回のキャンプのテーマソングとして定めてくださった「今日も、そして明日も」は、主イエスが私達と共におられる恵みを歌っている讚美歌で、「今日も、そして明日もイエスさまと共に」と歌うことで、いつも主イエスが共にいてくださり、私達を導いてくださることをより深く実感することが出来ました。

一日目の夜は、ナイト・ハイクを実施し、皆で女神湖畔で星を見ようと出かけました。あいにく雲が多く思うように星を見ることは出来ませんでした。それでもあきらめきれない有志のメンバーは、二日目のキャンプファイヤーの後、星を見に出かけ、今度は満天の星空を堪能することが出来たようです。二日目の昼には、毎度おなじみのバーベキューです。宿舎が高原にあり、夜は冷え込むため、今回は昼に行いま

二ページに続く



九月八日、  
日本聖書協会主催「東日本震災復興支援 三・一一を忘れない 愛の虹プロジェクト」メサイア二〇一二「福島」を聴きに行った。

全国から集まった合唱ボランティア、この日のために結成された福島メサイア合唱団やプロの合唱団・ソリスト、仙台フィルのメンバーや福島出身の演奏家を交えた管弦楽団、総勢百人を超える方々が織りなすヘンデルのオラトリオ『メサイア』。福島市音楽堂大ホールいっぱい響きわたる一つひとつの楽曲に心を震わされ、合唱団の声はまさに地を揺るがす地鳴りのように、鳥肌が立つくらい。本当に大きな感動を受けた。

幅広い年齢層、遠隔地からの参加等、開催までには多くの苦労や困難があったと思うが、喜びをもって参加した一人ひとりに行動を起こさせたものは何だったのだろうか。

この演奏会に行くまでは、正直これほどの感動を受けるとは夢にも思っていなかった。自分でできる復興支援は小さくても、もつと真剣に協力していかなければならないと思わされた音楽会だった。  
(金刺)



したが、新鮮な野菜をはじめ、焼きそばや肉に舌鼓を打ち、参加者同士交流を深めることが出来ました。また、二日目午後、近くの広場で行われたドッチボール大会では、ゲームに夢中になり、気持ちよい汗を流すことが出来ました。その後の自由時間は、さわや



かな高原の風を感じながら、お土産を買ったりアイスクリームを食べたりして思い思いの時を過ごしました。この時間、青年たちは、宿舎のマイクバスで霧ヶ峰高原まで出かけ、高原の景色を楽しみました。夜のキャンプファイヤーは、前半は青年部会長の野澤さんのリードにより、楽しいゲームを、後半は狭山教会森淑子牧師の導きの下に、静かに火を見つめながら、メンバー一人ひとりが神様の前



に自分を省みる時を持ちました。多くの中高生が神様の前にこれまでの自分を省み、これまでの歩みとこれからの歩みについて皆の前で話すことが出来ました。聖霊である神様の導きと働きを実感する恵みの時となりました。今回は地区の青年部との共催という形で行いました。基本的なプログラムは同じもの

**KKS キャンプに参加して**  
中一 布村ひかり

KKS キャンプは初めてで、最初は緊張したけれど、いろんな人が話しかけてくれたのでよかったです。

名古屋からこのキャンプのためにご奉仕くださった熱田教会の小林光先生、中学生・高校生・教会青年をお送り下さった教会と、お祈りによって支えて下さった諸教会の皆様に感謝申し上げます。  
(地区教育委員)

としながらも、部分的に別プログラムを持ちそれぞれの個性を保ちながら進めることが出来ました。参加者がキャンプに主体的に関わる中で、相乗効果を上げることができたと感じています。それは、二日目のキャンプファイヤーで、多くの中高生が神様の前にこれまでの自分の歩みを省みて、これからの歩みについて、当初予定していた時間をオーバーしてまで語ることが出来たという、神様による恵みの時を共有することが出来た事によって示されています。

女神湖に星を見に行って、流れ星や北斗七星なども見えたし、天の川はとてもきれいでした。  
キャンプファイヤーでは、いろいろな遊びをしたし、いろんな人の話を聞いて、みんないろいろなことを考えているんだなと思いました。  
昼に女神湖の周りを歩いたときは、友達と一緒に船を作って、女神湖にうかせたりして楽しかったです。  
3日間だったけどとても楽しかったです。(熊谷教会)



### 青年部キャンプ

北本教会 峯尾 友香

二〇一二年八月十五日(水) 十七日(金)に、立科白樺高原ユースホステルにて、青年部キャンプが行われました。例年ですと、九月の連休を利用して、青年部修養会として一泊二日で行われていましたが、今回は初の試みとして、埼玉地区KKSキャンプと合同で行うこととなりました。

講師には、熱田教会の小林光先生をお招きし、「イエス・キリストにわたしたちに注がれた愛」というテーマでお話をさせていただきました。  
三度にわたる小林先生の講演、ナイト・ハイク、バーベキュー、スポーツ大会と楽しいプログラムがたくさん盛り込まれたキャンプでしたが、なんとといっても、今回のキャンプで一番充実していたのは、二日目のキャンプファイヤーだったのではないかと思います。  
参加者全員が、青年も中学生も奉仕者も皆で炎を囲み、交わりの時間の後、それぞれの証しを語り分かち合いました。普段の生活の中で学校の友達などには話し難いであろう、心の内をさらけ出し合うひと時。まさ

にそこに聖霊が降っていると  
思えるような不思議な雰囲気  
のひと時でした。  
青年部独自のプログラムと  
しては、三度の分かち合いの時  
が与えられ、良き交わりの時を  
持つことができました。

普段はあまり関わることのない中高生、青年が同じ場所に集められて、様々なつながりを持つことができる。このことがキャンプの醍醐味なのではないかと思えます。



今回は、KKSに思い入れをもって、積極的にそのイベントに参加し続けていた中高生たちが、KKSを卒業する年齢になつたら、青年部のイベントに参加する、という流れを作りたいかと思えます。今後機会があれば、KKSとの合同行事を行いたいのです。

### 伝道研修会

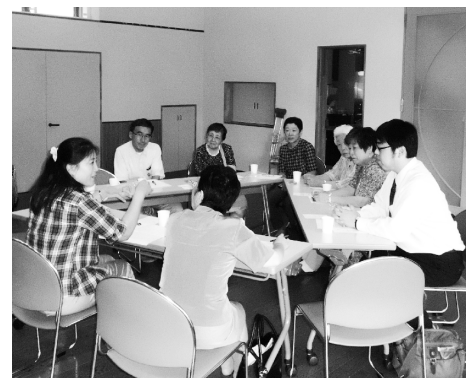
主題は信仰の継承と成長

大宮教会 西谷 祐司

昨年までは、「役員・伝道委員研修会」という名称で開かれていた埼玉地区伝道委員会主催の集会在、教会役員や伝道委員に限定せずより多くの信徒の方に参加していただくという趣旨で、今年から「伝道研修会」と改め、去る七月十五日午後三時から、埼玉新生教会で開かれました。

今年「信仰の継承と成長」という講演題で、日本同盟基督教団中野教会牧師であり、日本福音同盟元事務局長でもある石川弘司先生のお話をうかがいました。猛暑の中でしたが、参加は十三教会、四十三人でした。

日本のクリスチャンの平均(信仰)寿命は二年八か月という話をよく耳にします。石川先生の講演のテーマは、われわれ日本基督教団の教会でも抱えている、受洗された方が、数年で教会を去っていったりしてしまうという悩みに直結するもので、講演後の六分団でも予定の時間をオーバーしての熱い議論が繰り広げられました。  
先生の講演の骨子は、永続性



### 平和を求め

八・一五集会

川口教会 本間 一秀

八月十五日大宮教会を会場に「平和を求め八・一五集会」を開きました。沖繩教区金城重明牧師により「強制集団死からキリストに生かされて」と題して、次の四つの項目について講演をお聞きしました。  
一、沖繩戦の実態  
二、慶良間三島での強制集団死の発生  
三、戦後の苦しみの中からキリスト教信仰に導かれる  
四、私の「沖繩戦・強制集団死」に対する罪責告白

「あの日に死んだ人達のため、あのような悲劇を絶対に繰り返さないためにも、『集団自決』の真相を一生語り続けて行こうと決心した」と著書「集団自決を心に刻んで」に記された、金城先生の御講演をお聞きした今、私達は何を為すべきか? 当然「罪責告白」があつて然るべきである。沖繩との合同のとらえ直し、基地問題に真摯に取り組みたいものである。  
(社会委員会)

講演の録音が、埼玉地区のホームページ内の「報告」から入って「伝道研修会」をクリックすると、再生のリンクがあります。当日参加できなかった方はぜひお聞きください。  
(講演内容の詳細は「埼玉の夜明け」をご参照ください。)

地区災害対応講演会報告

和戸教会 三羽 善次

災害対応委員会主催の講演会が、九月十五日に大宮教会において開かれました。

福島第一原子力発電所に最も近い教会である、福島第一バプテスト教会の佐藤彰牧師の、真に迫るお話しをお聞きしました。



放射能の危機から、一斉に避難を余儀なくされた信仰の群れの苦難の日々を、佐藤牧師は生々しく語られました。

教会員に加え、避難指定地区から脱出した五十名以上の群れは、会津、米沢、そして奥多摩福音の家へと導かれ、奥多摩の地で教会メンバーを中心に共同生活が始まりました。それは何よりもまず、礼拝を捧げる事を第一とし、礼拝を大切に思う群れとなりました。その避難

生活の中で洗礼者、信仰告白者も与えられたとのこと。いくつかの場所を転々として、礼拝の場所を求めて移動される様は、あたかも旧約聖書の、生ける神を礼拝するために、エジプトを後にしたイスラエルの姿を思い起こさせました。

わたしたちは、その苦難の歩



みと共に、その中で信仰を問われ、また神の慈しみを生きて味わわれたお話しに感銘を受けて



した。佐藤牧師は「この地に神さまが、わたしを遣わされた」と、ご自身の信仰の思いも語って下さいました。

今、いわき市に新しい教会堂を建築中とのことです。講演会に参加された方々に、この新会堂を覚えて、帰りがけに自由献金をお願いしましたところ、約十万円献げられました。感謝致します。

なお、この日の出席者は、土曜日にもかかわらず百名の出席がありました。災害の中にあつてなお、信仰に共に生き続ける証しに、心打たれました。感謝をもつて報告いたします。

(災害対応委員会)

第十八回 障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会

(アーモンドの会)

―『ちづる』に共感・連帯の一日―

埼玉和光教会 藤原 秀

九月二十二日(土・祝)埼玉和光教会において、主題「障がいのある人と向き合う」―親子・兄弟・そして教会―で開催され、三十教会一六三人と五障がい者団体の参加があった。礼拝では「心の壁を取り壊し」と長尾邦弘牧師より説教があり、続いてドキュメンタリー映画『ちづる』を上映。

同映画の監督撮影者赤崎正和さんの講演があった。立教大学生の卒業制作として、広汎性発達障がいと知的障がいを持つ妹・千鶴さんと母・久美さ



んを一年間撮り続けた。結果、障がい者を差別する社会の不合理への怒りと正面から向かい合えなかった自身の障がい者への『かべ』に気づき、カメラで映すうちに、自分も変えられ、家族が大きく変貌していった。

当初、自身の卒業制作として第三者的に取り組むうちに、障がいとは？差別とは？家族とは？様々な疑問が湧き出て、障がいのある妹を「一人の人として見られるようになり、妹の独特なキャラクターを羨ましくさえ思え、幼い日の兄妹に戻れた。生まれ変わったように嬉しく、楽になった」と会衆に語る赤崎さんの話に、うなづき涙する人々もあった。

母・久美さんが多くの障がい者家族に励まされ、多くの人々に障がい者とその家族のことをもっと知ってもらいたいと、すべてをさらけ出す日常生活の撮影・公開を受諾し、『息子が妹に向き合ってくれた』と喜んでくれ、そして今、赤崎さんは障がい者施設で働いている。

祈りと賛美が始まったこの懇談会は祈りで閉会し、共に生きる教会を目指す新たな一日となった。

(障教懇談委員会)

### 教会音楽講習会

浦和東教会 岩佐眞知子

今年のテーマ「オルガンをもっと知ろう」の第二回目「パイプオルガン」が、九月二十九日(土) 大宮教会に於いて行われました。東大宮教会の山ノ下牧師の開会祈禱で始まり、十九教会三十八名の参加でした。



講師は、マイク・ガルニエ・オルゲジャボン社のマティウ・ガルニエ氏です。多数の研鑽を積まれ、一九九九年にガルニエ・ジャボン社に入社。東京芸術劇場、東京芸大、聖路加病院礼拝堂など多数のオルガン製作やメンテナンスに携わっておられます。

今回使用されたのはガルニエ社の「ポジティブ・オルガン」で、四つの音色、足鍵盤無し、手鍵盤のみの小型オルガンです。この小さなパイプオルガンの中の構造がどうなっているのか、私達はとても興味津々でした。

当日私達が会場に入ってみると、既にオルガンは、木の枠だけになっていて、テーブルの上には大中小の二一六本の管が並べられていました。「パイプオルガンの重要な部分は、鍵盤、パイプ、風です」と言われ、外枠は堅い檜、パイプは響きの良い樅や加工し易い錫・鉛を使用するなど、部品のひとつひとつがそれぞれに適した自然の材料で作られていると説明がありました。

マティウ氏はまず、鍵盤下にくるトラッカーという重要な部品を慎重に設置し、パイプを次々と組立て、モーターで風を送り、音の調整に入りました。今回は時間がなく十分でできませんでしたが、本来はその場所と用途にあった調律と調整がととても大切で、ていねいに整音をしなければならぬと強調されました。

最後に成田恵子先生の演奏に皆聞き入り、ポジティブ・オルガンの魅力を感じる事が出来ました。本体一二四cm×四八cm×八五cmの小さな箱から素晴らしい音が出る事に、とても感動しました。

(教会音楽委員会)

### C Sせいと大会

行田教会 諸岡 功

第四十五回C Sせいと大会が十月八日の体育の日に国営武蔵丘陵森林公園にて行われました。例年では十一月三日の開催ですが、今年は土曜日であり翌日が永眠者記念礼拝となる為、日程を変更しました。その成果?か晴天のもと十三教会から九十九名の参加がありました。

開会礼拝は東松山教会の野村牧師によるメッセージを頂き、各教会紹介と難解?なクイズに対し用意しておいたプレゼントが足りなくなる位の人氣となりました。お昼の後も広い運動広場でいっぱい遊び、午後の交流会ではご褒美抜きとなっていました。みんな楽しんでいました。礼拝



新聞紙くぐり対抗戦です。うまくくぐるかな



へびじゃんけん：いざ勝負!

拝献金は東日本震災を覚えさせました。毎年参加している人、久々に来てみた人、せいとの都合が悪く大人だけ参加の教会もありましたが、みんなが集まり何かを求め、得ることが出来たのではないかと思います

(教育委員)



「みんなで遊ぼう：へびじゃんけん：最後の決戦! このあと、みんなで丸く輪になって座り、終わりの会をしました。」

### 中学生・KKSフェスタ

埼玉和光教会 水谷 理恵

十月二十日に初雁教会にて秋のフェスタを持った。これは夏の中学生・KKSキャンプの文集作りをし、思い出を分かち合いつつ、さらに交流の時を持つことを趣旨とする会である。今年のキャンプは青年部の修養会も共に行ったため、秋のフェスタでも中高生と青年が集い、楽しい和やかなときとなった。

文集を綴じる班と食事を準備する班とに分かれて作業を進めた。カレーや各種の野菜を昼食に頂き、食事をしながら夏の思い出や最近の出来事などの話題で話はずませた。片づけの後はビンゴゲームなどで交流のときを持ち、最後に閉会礼拝を守って会を終えた。閉会礼拝では賛美を輪唱で歌い、美しいハーモニーをつくった。お話は坂戸いずみ教会の山岡創牧師がされ、ある歌の歌詞を出発点にして人間の中の正悪の両義性について話された。最後に文集を受け取って、別れを惜しみつつ十四時半頃に解散された。当日は川越祭りが開催されており、お祭りの熱気も感じながら過ごした。

### 伝道と賛美の集い

埼玉新生教会 村越 栄二

十月二十八日に埼玉大通り教会を会場にして、「伝道と賛美の集い」が行われました。昨年度から候補として挙がっていた会場教会が「埼玉大通り教会」なのですんなり開催場所は決まりました。テーマをチャペルコンサートとし、ポスターはチャペルのスペルの最初の「C」とコンサートとのスペルの最初の「C」がデザインされたものでした。

お招きする、出演者はヴァイオリン奏者の「杉山優子」氏とピアノ伴奏の「木下裕美」氏でした。

当日、あいにくの雨模様でしたが、開場の十四時三十分を回ると、人々が集まり、ますますの入り。

十五時伝道委員の司会で始まりました。山ノ下委員長挨拶。この集いの趣旨・経緯を説明しました。そして、杉山、木下両氏を迎え、紹介の後に、演奏が始まりました。

透き通る弦の音色とびつたり合ったピアノの音色とが会場いっぱいになり、魅了していました。又、知っている曲が多いのも感動へ一役かかっていま



した。

前半が終了し、休憩タイム。準備していたテントが用いられ、雨にぬれることなくほっとひと息つくことができました。

第二部のスタートは東海林牧師（埼玉大通り）のシヨートメッセージ。これもヴァイオリンが登場するお話もあり、ひきこまれ、聖書の言葉に満たされていきました。そして、アンニローリーから再び演奏です。

さらにその音色に魅了され、ずっと聞いていたいひとときでした。「ふるさと」をいっしよに歌い、快く幸いでした。

この音色をいつまでも…あつという間に、終わりの時間となり、奏者に花束を受けていただき、アンコール。拍手は手が痛くなるほど打ち鳴らしました。

出席された方々は、充実感に満たされて、家路についていった。参加人数は五十一人（十一教会三十七人 一般十四人）

でした。尚、ご奉仕して下さった埼玉大通り教会の皆様、出席された地区の教会の皆様、この日を用意された、主に感謝をささげつつ報告いたします。

(伝道委員会)

### 新年合同礼拝のお知らせ

和戸教会 三羽 善次

埼玉地区では、新年合同礼拝を毎年一月の成人の日に行っています。隔年で地区全体と三区ごとの礼拝が持たれていますが、来年は各区の礼拝となります。

一月十四日(月・休)

午前十時半より

▼一区 場所 岩槻教会

説教者 鈴木一義牧師

(シャロンのばら教会)

▼二区 場所 埼玉和光教会

説教者 野村忠規牧師

(東松山教会)

▼三区 場所 北本教会

説教者 竹内紹一郎牧師

(深谷西島教会)

ぜひ多くの方が御出席される事をお勧めいたします。

新年礼拝は、わたしたち同じ地区にある教会にとって、信仰の連帯と一致を新たにし、共に

主の聖餐にあずかり、キリストにつながれた群れであること、互いに確認したいと思えます。

このような年初めの礼拝で、多くの牧師、信徒の方々とお会いできる事は幸いです。

(教師部委員長)

### 地区会計からのお知らせ

大宮教会 結城 恭子

地区会計は一般会計と特別会計に分けられ、一般会計の規模をここ数年毎年十%程度削減してきました。これにより高額となっていた前年度繰越金を適正化することができました。今年度からは収入と支出がバランスするような本来の会計に戻しています。

そこで、来年度の地区会計について、方針を定めました。

会計規模を昨年とほぼ同様として、収入は各個教会の分担金(教区負担金に一定率を掛けて算出)の増額(全体で二〇万円増)をお願いするとともに、特別会計の地区伝道積立金(地区デー献金、各集会での席上献金)より繰り入れることとしました。

支出については、教師研修費の項目を削除して教師委員会費に統合し、各委員会費を五〇%程度減額することを検討しています。

来年度の予算を立てるに際し、以上を踏まえてご協力をお願いいたします。地区会計をご理解の上、祈りお支えください。

(地区委員・会計)

# 特集 関連学校紹介

## 東京聖書学校



東京聖書学校吉川教会牧師  
東京聖書学校舎監 深谷 春男

「埼玉県にあるのに何で東京聖書学校なんですか？」と問われた事があります。埼玉にあるのになぜ「東京聖書学校」なのか？紹介いたします。

日本基督教団には教団立神学校の東京神学大学と、五つの認可神学校があります。当校はこの五つの神学校のひとつです。

関東教区では教団認可神学校としては唯一の神学校です。

伝道者、牧師養成は教会を生まみ出す母体のような大切な働きです。どうか献身者のために、



に、教鞭をとる先生方のために祈り下さいます。当校の沿革を簡略

に紹介します。一九〇一（明治三四）年に中田重治、カウマン、キルボルの諸師によって神田表神保町一丁目の中央福音伝道館が設立されました。その伝道館に伝道者養成の目的をもって、聖書学院を開始しました。この聖書学院は一九〇四（明治三七）年新宿柏木の新校舎に移転、その後、長年にわたる伝道者を送り出してきました。

一九三三（昭和八）年、淀橋教会に移転、東京聖書学校と命名。その後、学生の増加に伴い、校舎を板橋区毛呂に新築し多数の学生を養成。前途洋々たるを思わしめられた矢先、太平洋戦争となりました。旧ホーリネス系諸教会に対する国家の弾圧により、日本基督教団の第六部であった群の多くの教師たちも投獄されました。

聖書学校はそれらの諸教会と共に解散を命じられ、校舎も手放さざるを得なくなりました。これがホーリネス



ちも投獄されました。聖書学校はそれらの諸教会と共に解散を命じられ、校舎も手放さざるを得なくなりました。これがホーリネス

ス弾圧事件です。

戦後、日本基督教団に教師として復職した教師たちが、ホーリネスの群を結成し、「東京聖書学校」を日本橋芳町にある聖都教会内に再開。そして、一九五〇年にこれを日本基督教団淀橋教会内に移し、多くの卒業生を送り出してきました。

一九八〇年十月に東京都東久留米市に学校建物を購入して移転、十二年余にわたりその使命を果たしてきました。そして、一九九四年四月、埼玉県吉川市（現所在地）に新校舎を建設し、名称はそのまま現在に至っています。

では、現在の様子をご紹介します。当校の特色は、「神学的にはジョン・ウェスレーの神学的伝統に立ち、聖書的聖潔（きよめ）を目指し、実践的伝道者を養成すること」を目的としています。

従って全寮制が基本です。わたしども舎監夫婦は神学生と寝食を共に生活しています。神学の学びと共に、献身ということを、生活全般で、身をもって学ぶことを大切にしています。一日のスケジュールは大体次のようです。

まず、朝六時から五〇分間の早天祈祷会。その後、一斉に掃除です。七時十五分に朝食。八時からは密室（一人で神の前に出る時を過ごします）。

九時から四時まで授業時間。授業は、旧約新約聖書の基礎、緒論、釈義、神学、組織神学、教会史、実践神学、ウェスレー神学やホーリネス特講、ギリシャ語、ヘブル語、教会音楽、説教学や説教演習等の学びは力を入れます。月一回は書道の授業もあります。

六時から夕食です。夕食後は自由。それでも発表やレポートの準備、風呂の当番や、週番が廻ってくるので結構、充実して（？）います。食事作りも月一回くらい訓練として当番が廻ってきます。

日曜日は教会派遣。月曜日は早天祈祷会が終わると休息の日です。年二回、ファミリーデー等の交わりの時もあります。今年度は、横浜海岸教会に行ってきました。教会での礼拝、安くて美味しい中華街での昼食、バラ園の散策。楽しいひとときでした。

夏にはキャラバン派遣、チーム派遣、個人派遣などで、日本中の教会で奉仕します。バイブルキャンプや合同の聖会や修養会等でも、日焼けして頼もしく成長するときです。在学年数は四年。献身者は学

びと訓練を受け、成長して、巣立って行きます。現在、神学生は十二名。舎監や事務や食事担当スタッフがおり、聴講生が十二名ほど

います。みんな神の家族という感じで、和気あいあいとしています。今、当校は築後十八年を経て増改築工事に入っています。四月四日に起工式をしました。四月五日には献堂式をする予定です。この工事が終わるとチャペルが拡がり、東京聖書学校吉川教会の専用ルームも与えられることになっています。道路に面して、コーヒーハウスなどはどうか？若いお母さんの会などもほしい。と夢が広がります。

授業の聴講ができます。新旧約の学び、ヘブル語やギリシャ語の学び、教会史やウェスレー神学など、ご連絡ください。連絡先は〇四八―九八二―五〇六四です。ホームページやブログもご覧ください。

びと訓練を受け、成長して、巣立って行きます。現在、神学生は十二名。舎監や事務や食事担当スタッフがおり、聴講生が十二名ほど

います。みんな神の家族という感じで、和気あいあいとしています。今、当校は築後十八年を経て増改築工事に入っています。四月四日に起工式をしました。四月五日には献堂式をする予定です。この工事が終わるとチャペルが拡がり、東京聖書学校吉川教会の専用ルームも与えられることになっています。道路に面して、コーヒーハウスなどはどうか？若いお母さんの会などもほしい。と夢が広がります。

授業の聴講ができます。新旧約の学び、ヘブル語やギリシャ語の学び、教会史やウェスレー神学など、ご連絡ください。連絡先は〇四八―九八二―五〇六四です。ホームページやブログもご覧ください。

びと訓練を受け、成長して、巣立って行きます。現在、神学生は十二名。舎監や事務や食事担当スタッフがおり、聴講生が十二名ほど



びと訓練を受け、成長して、巣立って行きます。現在、神学生は十二名。舎監や事務や食事担当スタッフがおり、聴講生が十二名ほど

びと訓練を受け、成長して、巣立って行きます。現在、神学生は十二名。舎監や事務や食事担当スタッフがおり、聴講生が十二名ほど

地区委員会報告

●二〇一二年度第三回委員会

日時 七月十日(火)

会場 埼玉新生教会

出席 十名 欠席 一名

【主な報告】

◆委員長報告

\*教会・教師の情報

・就任式

七月八日、鴻巣教会・塚本洋

子牧師。七月十五日、加須教

会・舟生康雄牧師。七月二二

日、三芳教会・江田めぐみ伝

道師

・逝去

六月二三日、日野原記念上尾

栄光教会・長橋晴子伝道師。

六月二五日、中村忠明教師

(隠退教師)。

・献堂式

六月十七日、初雁教会。

\*関東教区常置委員会報告。

◆五月、六月の会計報告。

◆各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◆地区予算に関する件

現在の会計状況では、二〇一

三年度の一般会計は赤字予

算に陥る可能性がある為、会

計全般の見直しと調整を

行った。尚、次回地区委員会

で二〇一三年度仮予算を会

計が作成し、それをもとに次

年度予算について検討する。

◆教育委員会委員長の件

現在の委員長の山岡創牧師

は二〇一一年・二〇一二年

は再任されない期間である

ことが判明したため(教育委

員会では休職期間を一年間

と誤解していた)、委員長は

川中真牧師に変更する。尚、

今年度山岡創牧師は協力委

員となる。

◆関東教区から仙台、石巻への

ボランティア派遣の件

関東教区東日本大震災支援

委員会より、仙台若林区七

郷・石巻への継続的なボラ

ンティア支援の要請があり、

ボランティアの窓口及び募

集等のコーディネートに災

害対応委員会が出来るかど

うかの検討を依頼する。継続

審議。

◆伝道援助金申請に関する件

・深谷西島教会より地区伝道

援助金(五万円)の申請があ

り、これを承認。

・伝道援助金(会計項目では伝

道協力金)の名称を伝道支

援金に変更して会計項目も

統一する。尚、出来るだけ広

く活用して頂くため、申請用

紙を作り総会議案報告書に

添付する。

◆その他

桶川伝道所より出された教

区教会協力金申請書を承認。

●二〇一二年度第四回委員会

日時 九月十四日(金)

会場 埼玉新生教会

出席 十一名 欠席 なし

【主な報告】

◆委員長報告

\*教会・教師の情報

・献堂式

八月二六日、北本教会。

\*関東教区常置委員会報告。

◆書記・補助書記報告

地区月報八月号の裏面に「二

〇一二年度埼玉地区各委員

会各部名簿」を掲載。

◆七月、八月の会計報告。

◆各委員会・各部報告

【主な協議事項】

◆地区予算に関する件

会計より提出された二〇一

三年度仮予算に基づいて、支

出を抑える方向で検討した。

次回委員会にて会計が修正を

加えた仮予算を再度提出し

て検討する。継続審議。

◆東日本大震災関連の件

・教団教育委員会より被災幼

稚園・保育所に見舞金が分

配されるが、見舞金を受け取

る地区内の幼稚園・保育所

は無いと判断。

◆各種申請に関する件

・教会音楽委員会より教団讃

美歌委員会へ申請された補

助金申請を地区として承認。

・加須教会より出された教区

教会協力費の申請を地区と

して承認。

◆クリスマスプレゼントの件

クリスマス互助金を七教

会・七名、隠退教師十二名、

総額十七万円を執行する。

◆インターファックスに関す

る件

・久喜復活集会所と北鴻巣集

会所をインターファックス

に登録する。

・緊急連絡以外で利用する場

合(各委員会からの集案内

等)は、利用した金額を各委

員会・各部に負担を求める

(A四判一枚で千八百円)。

・利用したい場合は、地区書

記・補助書記、又は災害対応

委員会書記に連絡する。

◆教育委員会委員選出の件

教育委員会より委員(教師)

選出にあたって引き受け手

が少ないので、地区委員会で

検討するよう依頼があり、継

続審議とした。

◆その他

社会委員会から「埼玉の夜明

け」を地区ホームページに

掲載して欲しいとの要望を

承認。

編集後記

中学生・KKSキャンプは

青年部も合同して、素晴らしい

キャンプになったという報告

は、何よりも私たちを元気づけ

る。信仰の継承を課題としてい

る昨今、若い人たちとの話題の

を絞り切れないこと、自

分を捨てて主に従う喜びを

語ってもむなししいのではない

かと恐れていたことが、逆にこ

のキャンプに参加した若者た

ちが次々に証を語り続け、参

加者だけでなく、このキャンプの

奉仕者までもが、お互いに心を

揺さぶられたとの報告である。

CSせいと大会が例年より

ひと月ほど早く森林公園で開

催され、九十九人の参加者が

あった。普段の教会のCSで

も、生徒が高学年になるほど少

なくなっていく傾向がある中

で、力強いイベントである。

特集では東京聖書学校をご

紹介いただいた。長年良き伝道

者を養成し、世に送り出して下

さることに感謝している。(三井田)

訂正

前号四十一―一号で地区委

員紹介の記事の小岩晃兄のル

ビを「あきら」に、お詫びし訂

正いたします。